

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス糸満教室		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 18日	～	令和8年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 13日	～	令和8年 2月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しさを重視した運動療育の成功体験型の支援	<ul style="list-style-type: none"> 月に一回、職員間で運動活動プログラムミーティングを開き、1か月ごとの活動のねらいや目的、運動補助の仕方について話し合うようにしています。その際、運動療育支援員の資格を取得した職員の助言を受けながらより良い補助の仕方を検討し実践しています。活動記録を残し、次年度にも生かせるようにしています。 希望する職員は、年に数回ある研修にて運動療育支援員の資格を取得しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をより的確に把握するため、運動内容をイラスト化し未就学児童でもわかりやすい内容で掲示するなど挑戦意欲を養う為に見直しを行っています。 職員間での運動プログラム会議や振り返りの機会をさらに充実させていきます。
2	丁寧な情報共有と保護者対応	<ul style="list-style-type: none"> 帰りの送迎時の口頭報告やLINEなど連絡ツールを活用し、活動内容や利用時のお子さんの様子を具体的に伝えることを心がけています。また、小さな体調の変化や成功体験を共有することで、家庭と事業所が同じ視点で子どもを支援できるよう努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が相談しやすい環境づくりを目的とし、面談や情報共有の機会をより分かりやすく周知していきます。 活動のねらいや子どもの成長過程が伝わる情報発信を心がけていきます。
3	安心して通所できる環境づくりと職員数の多さ	<ul style="list-style-type: none"> こどもが安心して過ごせるよう活動内容に応じた空間設定や見通しの持てるスケジュール掲示を行っています。職員間で対応方法を共有し、関わり方に一貫性を持たせることで情緒の安定に繋がっています。「できた」「楽しい」と感じられる経験を積み重ねられるよう成功体験を意識した支援を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもの発達段階や特性に応じた環境設定を継続的に見直し、安全面への配慮を強化します。 見通しを持って安心して活動に参加できる支援方法の改善を進めています。 職員間の共通理解を深めるための研修機会を充実させ安定した支援体制の維持・向上に努めています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の場を設け保護者会を開催すること	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の就労状況が多様で参加可能な日時の設定が難しい状況です。 日常の送迎時のやり取りが中心となり交流の機会を計画的に設けられていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の紹介やテーマ設定を明確にし、参加意義が伝わるよう工夫していきます。 年間計画に保護者交流の機会を位置づけ、早めに日程調整を行います。
2	保護者向けの家族支援や研修機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者ニーズの把握が十分できていない状況があります。 	<ul style="list-style-type: none"> まずは、小集団の保護者会の開催を目指します。今後は、外部講師の活用、資料配布や動画配信など参加できない家庭へのフォロー体制を整えていきます。
3	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域の公園で近隣児童も交えた活動は行っていますが、交流機会が限定的になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加や施設開放など、双方向の交流を進めていきます。また保育所等訪問支援等を通して地域の子供たちや地域団体との交流を深めていきます。